

全日本少林寺拳法全国実業団連盟演武大会

とき—昭和48年6月24日(日)午後1時 ところ—日比谷公会堂

主催—全日本少林寺拳法実業団連盟 共催—全日本少林寺拳法関東高校連盟 協賛—(社)日本少林寺拳法関東連合会
後援—労働省 フジテレビ (社)日本少林寺拳法連盟 日本少林寺拳法有段者会 日本少林寺拳法振興会



目次	
2頁	聖句
3頁	信条
4頁	大会式次第
5頁	宗道臣あいさつ
6頁	〃
7頁	藤川一秋，江崎真澄あいさつ
8頁	大会役員
9頁	〃
10頁	特別賛助会員
11頁	大会宣言
12頁	大会実行委員
13頁	出場者名
13頁	〃
15頁	〃
16頁	〃
17頁	少林寺拳法—その思想と技法
18頁	少林寺拳法とは
19頁	少林寺拳法の歴史
20頁	金剛禅の思想
21頁	〃
22頁	金剛禅運動の展開
23頁	行としての少林寺拳法
24頁	〃
25頁	少林寺拳法の技
26頁	〃
27頁	〃
28頁	〃
29頁	〃
30頁	〃
31頁	支部プロフィール
32頁	連盟所在地



聖句

すべて悪しきことをなさず
善きことを実践し

自己の心を浄むること
これ諸々の仏の教えなり

己れこそ己の寄るべ

己れを措きて誰によるべぞ
良く整えし己れこそ

まこと得がたき寄るべなり

自ら悪をなさば自ら汚れ

自ら悪をなさざれば

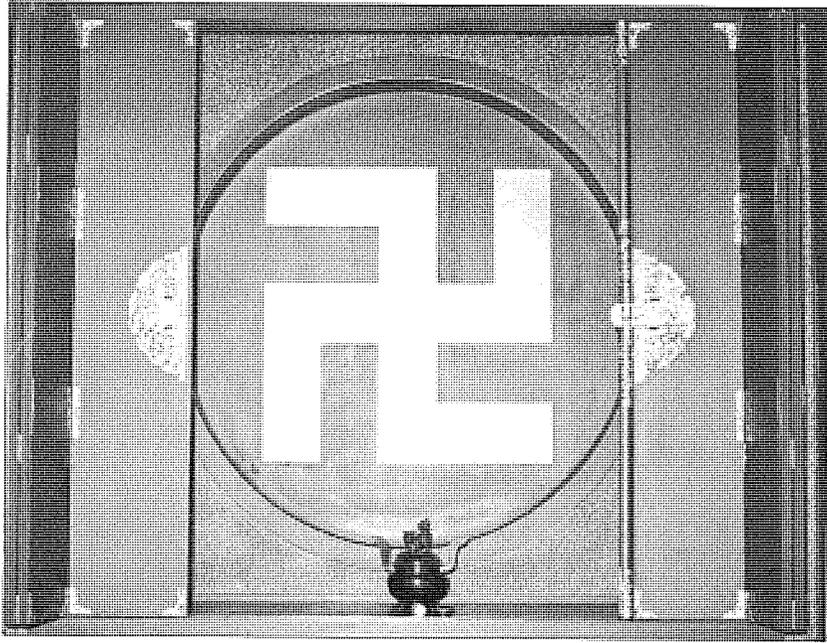
自らが浄し

浄きも浄からざるも

自らのことなり

他者に依て

浄むることを得ず



信 条

- 一、我々は魂をダーマよりうけ
身体を父母よりうけたる事を感謝し
報恩の誠をつくさんことを期す
- 一、我等は日本人として祖国日本を愛し
日本民族の福祉を改善せんことを期す
- 一、我等は正義を愛し人道を重んじ
礼義を正し
平和を守る
真の勇者たることを期す
- 一、我等は法を修め、心身を練磨し
同志相親み 相援け 相譲り
協力一致して理想境建設に邁進す

大会式次第

1. 予 選(午前9時)
2. 選手入場(午後1時)
3. 国歌斉唱
4. 開会宣言
5. 鎮魂(座禪)集団演武
6. 奉納演武
7. 花束贈呈
8. 大会長あいさつ
9. 特別来賓あいさつ
10. 招待演武
11. 管長講話
12. 演武(大会決勝)
13. 少林寺拳法の歌
14. 表彰
15. 閉会の辞(午後5時)



宗道臣

「理想の楽土への道として」

日本少林寺拳法連盟会長 師 家、 宗 道 臣

本日ここに第一回日本少林寺拳法全国実業団連盟演武大会が藤川一秋総合開発機構社長を大会長として盛大に開催されますことは、この道の伝法者として、まことに慶賀にたえません。

本大会の開催に当り、ご協力賜った有志各位と尽瘁せられた関係者各位に対し、衷心より敬意と感謝をささげる次第であります。

1970年代を迎え、わが国は物質面においては、国民総生産世界第二位という未曾有の繁栄を誇るに至り、国民の消費生活もまた著しい発展を見せて参りましたが、エコノミックアニマルと世界から排撃され、物質面のみの発展に対して各国から非難の声が上っております。一方精神生活の面では今なお深い混沌の中に沈潜している状態で、旧来の宗教道徳は衰退し、多くの人々は精神的支柱を失ない、日常生活は軽薄に流れたが、享樂と安逸を求めて人生の真の意義と目的を見失っております。

また一方には個人の尊重を履き違えた、自己以外のものを一切認めようとしなない「己れしかない」生き方が横行し、他方には、定められたこと、与えられたことだけを最少限に行なって、責任はなるべくとらないですむように努める「己れのない」無気力、無関心な生き方が蔓延しております。

このように荒廃した精神的風土は、わが民族の将来にとってまことに由々しいことと言わねばなりません。

私は20数年にわたり、一貫して新しい民族意識を身につけ、社会正義を実現する勇氣と行動力に溢れた、身心共に逞ましい青年を一人でも多く育てることこそが、日本の将来を、理想の楽土を拓くたが一筋の道だと主張し、実践し続けて参りました。

おもえば、昭和21年の敗戦直後の日本に、私は、残留をすすめてくれる中国人有志の好意を振り切って帰国しました。しかし夢にまで見た祖国は、戦火に荒廃し、人情はすたれてあとかたもなく、日本人同志が互いにいがみあ

い、傷つけあって、誰もが、自分だけの幸せを願い、他人の不幸は見て見ぬふりをすることに慣らされており、不正と暴力が白昼堂々と横行し、道義も秩序もない、弱肉強食の修羅場が現出していたのであります。

祖国の将来を担うべき青少年の多くは、虚脱感と不信感にとらえられ苦しい現実から逃避するために、目前の享樂に我を忘れて、過激な外国思想に染まり、祖国を見失って、日本人であることを忘れかけているものがふえている現状でありました。

私が日本の将来を担うべき若者を一人でも多く育てる為にともした一つのささやかな灯火が今、20有余年を経て1,300の支部道院、40数万の拳士によって受け継がれ、なお海外を含め、大きな炬火となって燃えあがりつつあります。

この事実は、拳禅一如の修業による身心の陶冶を通じて真によりどころとするに足る自己を確立するとともに、人間どおしの相互の信頼と愛情を深めて理解しあい、援け合い、手を握り合って、物心両面の、楽しく豊かな理想の楽土を、まずわが国に打ち樹てんことを目指す金剛禅の思想と在り方が純粹多感な青年諸君の心をとらえ、有識者各位の共感を呼んだからに他ならないと確信しております。

しかし混沌とした現代の世相の中で調和の精神を基調として日本民族の真の団結と福祉に貢献せんとする金剛禅運動の前途は、なお遠く、はるかであると申せましょう。

それだけに、私は国家民族興隆の重責を担うに足る有為な青年を一人でも多く世に送り出すため、余生を傾けて運動の陣頭に立つ覚悟であります。

全国各地から本大会に集われた拳士諸君は自己の使命をよく自覚し、奮起していただかなければなりません。

本日の大会において、諸君が日頃修練した実力を遺憾なく発揮されることを祈りますとともにこの記念すべき大会を契機として、今後一層人間完成の道に精進し、それぞれの職場や、職域において、明るく平和な社会を築くための実践活動に挺身されんことを念願してご挨拶といたします。

ご挨拶



大会々長 藤川 一 秋

本日ここに全日本少林寺拳法全国実業団連盟演武大会が各界の深い理解と賛同のもとに盛大に開催できますことを心から感謝いたす次第であります。

今日の流動激しい時に際し、実社会に活躍する拳士諸君が、人類共存の哲理を踏まえて一堂に会することの意義は誠に大なるものがあると信じます。

さて人間福祉のための国づくりが、やかましく叫ばれておりますが、国づくりは本来、人づくりから始まるべきものであり、これが国土づくりと調和するところに真の成果が生れるものであります。たくましい青少年を育成して、その中から多くの人材が輩出されるところに社会の発展があるとも云えましょう。

拳法の説く「自己確立」「自他共栄」こそ人づくりの基調であり、幸福社会の真髄でもあります。

出場の拳士諸君は日頃練磨された心技を余すところなく充分に発揮されたいと共に、不動の精神を会得していただきたい、さらに今後もそれぞれの職域において拳禅一如の実践を通じて、福祉社会の建設と平和の確立のために献身されんことを切に希うものであります。

素朴な三つの願い

- 一、できるだけ豊かでありたい——豊かさがなければ衣食住も満たされない、住みよい環境も造れない(理想は平準な豊かさ)
- 一、できるだけ自由でありたい——いくら豊かでも自由を束縛されたら生きがいに通じない(勿論他人に迷惑をかけない原則を守って)
- 一、できるだけ平和を永続したい——豊かさも自由も、平和の中でなければ価値がない(どんなユートピアを造るにも人間と人間の犠牲の上にはできるとしたらそれは偽物で永続しない)

合 掌

人間性を磨きあう場として



特別顧問 江崎 真 澄

また、少林寺拳法の新しい分野への発展に心から敬意と祝意を表します。ここ日比谷公会堂において第一回全日本少林寺拳法全国実業団連盟演武大会が盛大に開催されますことは、日頃少林寺拳法の発展を念願し、わが国青年の健全な成長を期待するものとしてまことに力強いことに思います。ここに関係皆さんのご努力とご協力に対し深く感謝する次第であります。

この大会を通じて、「礼に始まり礼に終る」拳禅一如をモットーとし自他共栄の精神を貫ぬく少林寺拳法を一人でも多くの人々に理解していただきたいと思います。

宗道臣師家が、戦後の祖国再建を熱願されて、四国の地に少林寺拳法の教えを手ほどきされてから20有余年、今や全国に40数万の拳士を教えるほどに発展しました。また少林寺拳法そのものも広く世間に認められてまいったのであります。

次の世代を担う多数の若もの達が、宗道臣先生のもとに、見事な武道修練を通じて心身の練磨に励んでいる様子は、文字通り文武不岐の境地を発揚するものであり心強いものを感じます。

本大会は、日頃鍛えた技を充分発揮する場であるとともに、各人の視野を広め人間性を磨きあう場でもあります。出場拳士諸君は「平常心」をもって、あわてずさわがず堂々と日頃体得した拳法の真髄を発揮されたいのであります。そうして外国人からも尊敬されるような秩序正しい立派な祖国をつくりあげるものは自分達だという自信と誇りをもって進まれるよう、深く期待するものであります。



大会役員

大会会長 藤川 一 秋

全日本少林寺拳法全国実業団連盟会長
トピー工業(株)会長、(株)総合開発機構社長

大会副会長 遠藤 政 夫

労働省職業訓練局長

鈴木 久 進

鈴木シャッター(株)会長

長 澤 亮 太

建設省建設大学中央訓練所長

中 田 定 士

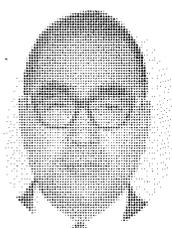
雇用促進事業団理事



遠藤政夫



鈴木久進



長沢亮太



中田定士

師 家 宗 道 臣

金剛禪總本山少林寺管長

特別顧問 江 崎 真 澄

日本少林寺拳法振興会会長、自治大臣
国家公安委員長、北海道開発庁長官

加 藤 常 太 郎

労働大臣

金 子 正 則

日本少林寺拳法有段者会総裁、香川県知事

笹 川 良 一

全日本少林寺拳法連盟副会長、船舶振興会会長

竹 田 恒 徳

(社)日本少林寺拳法連盟総裁、国際オリンピック委員会
理事

松 平 頼 明

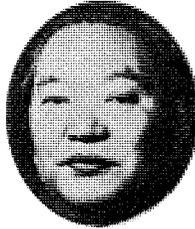
(社)日本少林寺拳法連盟副総裁、香川県教育会会長

松 前 重 義

全日本学生少林寺拳法連盟会長、東海大学総長



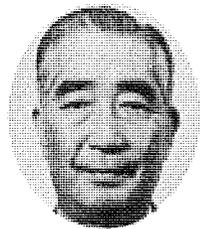
加藤常太郎



金子正則



笹川良一



竹田恒徳



松平頼明



松前重義

(五十音順 敬称略)

特別賛助会員

荒川為義	アラ商事(株) 社長	平井富三郎	新日本製鉄(株) 社長
石川六郎	鹿島建設(株) 副社長	平本証三	リッカーミシン(株) 社長
石橋幹一郎	フジストンタイヤ(株) 社長	藤森真生	美スズ産業(株) 社長
石井久	立花証券(株) 社長	福田勘太郎	福田勘産業(株) 社長
飯田博	(株)岡永 社長	堀江康子	(株)酒悦 社長
今里広記	日本精工(株) 社長	三輪善雄	ミツワ石鹼(株) 社長
岩城謙太郎	イワキ(株) 社長	宮市正武	(株)エヌ・シ・エス 社長
江良正三	多田建設(株) 専務取締役	森下泰	森下仁丹(株) 社長
岡部三郎	東亜港湾工業(株) 社長	盛田昭夫	ソニー(株) 社長
小川邦夫	藤田観光(株) 専務取締役	山田正彦	(株)三協精機製作所 社長
大沢隆	中央宣興(株) 社長	渡辺和美	大崎電気工業(株) 社長
越智喜三郎	第一石産運輸(株) 社長	渡辺喜入郎	東江運輸(株) 社長
河合良一	(株)小松製作所 社長		(五十音順 敬称略)
加藤正	出光興産(株) 副社長		
五島昇	東京急行電鉄(株) 社長		
小坂俊雄	(株)小松ストアー 社長		
坂田時人	坂田真珠(株) 社長		
坂本弘	トピー実業(株) 社長		
佐治敬三	サントリー(株) 社長		
嶋中鵬二	中央公論社 会長		
田畑英一郎	トピー精工(株) 社長		
立川正夫	共同建設(株) 専務取締役		
立花保夫	トピー工業(株) 社長		
塚本幸一	ワコール(株) 社長		
戸田順之助	戸田建設(株) 社長		
友田信	(株)文化放送 社長		
中村廣忠	(株)好美屋 社長		
中森茂樹	共進運輸(株) 社長		
中森茂樹	シスコ(株) 常務取締役		
播鷹実	ハマノ工業(株) 社長		
浜野一郎	田中エスエル(株) 社長		
橋上保久	北越メタル(株) 社長		
原俊治			

大会宣言

われら全国実業団連盟に集う拳士は、職域における幸福運動の先兵としての自覚のもとに、有為なる人材として成長することを念願とし、金剛禅の教義を實踐して、健康な肉体と不撓不屈の精神を兼ねているのである。われらはこの認識のもとに日夜練磨した易筋行の妙技をしめさんと1973年の全国実業団連盟演武大会に力強く結集したのである。この記念すべき大会を期していよいよ拳禅一如の修業に励み、自己の人間形成に努めると共に、職域における幸福運動の先兵として進んで青少年の先頭に立ち、さらに民族愛を基調とした祖国の興隆と世界の平和に貢献する決意をあらたにするものである。

競技の目的

この大きな目的は、すべての行為をなすときに必要な心力、気力、体力の一致を発現できるよう訓練することで、平常心の養成にある。また競技を通じて拳士相互の調和をはかり、人間性の発展を企て、社会生活において、自他共栄の実を挙げることにある。

大会実行委員

大会相談役

内山 滋
久保 博
中野 益 臣
大屋 昭 夫
田村 倉 蔵
秋月 正 臣
新屋 雄 二

関東連合会理事長

関東連合会副理事長

常任理事

常任理事

常任理事

常任理事

常任理事

大会実行委員長

松木 長 實
谷村 斌 夫
安在 孝 夫
鷹取 英 夫
小野 寺 米 蔵
林 広 行
田村 義 久
高木 俊 知
帯谷 正 男
渡辺 和 夫
篠原 隆 孝
鈴木 秀 孝
立花 健 治
葛西 英 則
武田 隆 夫

庶務副委員長

会計委員長

会計副委員長

救護委員長

救護副委員長

記録委員長

記録副委員長

演武委員長

演武副委員長

受付委員長

受付副委員長

連絡委員長

連絡副委員長

放送委員長

放送副委員長

広島 昌 則
島 慎 治
中 辰 満 吉
天 藤 一 利
加 山 安 生
栗 藤 明 明
工 敏 明
石 渡 敏 明
中 平 新一 郎
中 井 一 美
九 鬼 健 二
加 藤 幹 二
大 野 木 憲 二
吉 住 克 也
多々良 秀 澄
萩 原 俊 治

審判委員

久保 博	正範士	秋吉 好美	准範士
中野 益 臣	正範士	岩田 定	准範士
大屋 昭 夫	准範士	小笹 裕 唯	准範士
田村 倉 蔵	准範士		

少林寺拳法の歌

独唱者 三橋 啓 蔵 准拳士 (バリトン)

日 東 身 第 三 農 日

奉納演武

山崎博通 准範士 ————— 新井庸弘 大拳士

招待演武

少年	山下徳子 (四級拳士)	—————	中平征明 (二級拳士)
少年団体	石井正人 (三級拳士)		千木良拓也 (四級拳士)
	小野和男 (五級拳士)		久保田優 (五級拳士)
	桜井耕司 (五級拳士)		沢田一 (四級拳士)
	沢田讓 (四級拳士)		斉藤勉 (六級拳士)
	河野孝司 (見習拳士)		
一般	真田玉雄 (大拳士)	—————	中島通雄 (大拳士)
女子	野尻みほ (中拳士)	—————	木村義雄 (少拳士)
外人	ジョセフ・カンズ (少拳士)	—————	日當喜澄 (正拳士)

組演武出場選手

関東地区

労働省	菅野文夫 (少拳士)	—————	佐藤芳邦 (准拳士)
	奥山茂志 (少拳士)	—————	木村良一 (准拳士)
日産横須賀	斉藤晃良 (中拳士)	—————	福田一明 (中拳士)
富士三鷹	森久保留次 (中拳士)	—————	大野和 (少拳士)
	関矢敏夫 (准拳士)	—————	水上進 (准拳士)
中央魚類	水野洋 (准拳士)	—————	山崎政富 (准拳士)
東京応化	田口信秀 (少拳士)	—————	田辺又信 (少拳士)
東京重機	栗山安生 (中拳士)	—————	渡辺雅広 (中拳士)
	吉住悟 (准拳士)	—————	金沢渕 (准拳士)
第四航空群	萩原俊次 (中拳士)	—————	柴田義雄 (准拳士)
	中尾明 (一級)	—————	大沼幸雄 (三級)
三井造船千葉	葛西英則 (准拳士)	—————	高橋英男 (准拳士)
	多田広志 (准拳士)	—————	田村彰 (准拳士)
農林省	古林博 (一級)	—————	沖田節夫 (一級)
	桜田明 (一級)	—————	古田士孝 (三級)
日立熱器具柏	高橋三男 (少拳士)	—————	斉藤明 (准拳士)

3
1
相
夕
小
佐
中
東
高
加
飯
坂
西
鈴
日
阿
谷
松
鈴
吉
遠

防衛庁	大科七五三則 (少拳士)	—————	安藤照行 (准拳士)
三鷹市役所	出竿俊夫 (准拳士)	—————	千葉俊広 (准拳士)
秦野	土屋功 (中拳士)	—————	平井美智雄 (准拳士)
	佐藤光二 (二級)	—————	本山信広 (二級)
千代田区役所	広嶋昌則 (中拳士)	—————	田中正道 (中拳士)
松戸自衛隊	大川原好夫 (准拳士)	—————	箕輪多加正 (一級)
国会	高橋秀夫 (少拳士)	—————	神山幸偉 (少拳士)
	緒方良一 (准拳士)	—————	塚本雄二 (准拳士)
首都高速道路公団	大塚隆男 (准拳士)	—————	大坪修治 (准拳士)
中国地区			
日本鋼管福山	高橋 (正拳士)	—————	稲田 (正拳士)
三井造船玉野	浜田恵津雄 (中拳士)	—————	久保薫 (中拳士)
関西地区			
松下電器 コンデンサー	長田修 (正拳士)	—————	高倉正明 (正拳士)
	福田強 (准拳士)	—————	辻崎竹彦 (准拳士)
松下電器茨木	高倉 (正拳士)	—————	大西 (少拳士)
	足田 (少拳士)	—————	安井 (中拳士)
松下電器豊中	棚野洋一 (中拳士)	—————	湯口清隆 (准拳士)
	石井健一 (准拳士)	—————	寺内光 (准拳士)
松下電器ラジオ	島稔 (少拳士)	—————	合田康治 (少拳士)
西宮市役所	浜崎正雄 (中拳士)	—————	車谷博 (中拳士)
中部地区			
小牧航空隊	森健太郎 (大拳士)	—————	柳沢光一 (正拳士)
日本電装 ^{本社} _{安城}	谷本省三 (中拳士)	—————	山田泉 (中拳士)
北海道地区			
北千歳自衛隊	坂本正光 (少拳士)	—————	阿波茂 (少拳士)

東北地区

青 葉

鈴木賢一 (少拳士) ————— 佐藤順一 (少拳士)

静岡地区

岩崎 篤 (少拳士) ————— 宮田孝次 (少拳士)

四国地区

団体演武出場選手

労働省支部

川上兼男 (1級)

植村孝雄 (1級)

矢吹俊夫 (2級)

小沢俊和 (3級)

佐々木好治 (3級)

中井泰昭 (3級)

東京応化

高野宏之 (5級)

加藤健一 (5級)

飯沢 慎 (5級)

坂下悦子 (5級)

西田祐子 (5級)

鈴木 茂 (5級)

日立柏

阿部松治 (2級)

谷田部克弘 (2級)

松原孝夫 (見習)

鈴木美智子 (見習)

吉留テル子 (見習)

遠藤栄子 (見習)

日産横須賀

辻本三穂 (少拳士)

川崎律夫 (准拳士)

木下繁世 (准拳士)

山本長市 (准拳士)

桧山賢二 (准拳士)

笹子 章 (3級)

第四航空群

萩原俊次 (中拳士)

山内有三 (准拳士)

柴田義雄 (准拳士)

柏村賢二 (准拳士)

樋山政重 (准拳士)

西野信二 (准拳士)

三鷹

持田 明 (准拳士)

永沢 明 (准拳士)

川名善雄 (准拳士)

柿本正義 (准拳士)

寺田誠二 (准拳士)

小川幸一 (准拳士)

富士三鷹

森久保留次 (中拳士)

大野 和 (少拳士)

関矢敏夫 (准拳士)

齐藤貴吉 (准拳士)

小林重利 (准拳士)

大高康村 (准拳士)

三井千葉

根元敬三 (1級)

根田 章 (1級)

安西昭二 (1級)

遠藤栄一 (1級)

鈴木正昭 (1級)

上野利男 (1級)

秦野

遠藤庫平 (中拳士)

小宮如和 (少拳士)

小宮正武 (少拳士)

岩沢 昇 (准拳士)

橋本 守 (2級)

浦部治孝 (2級)

国会

伊藤誠一 (正拳士)
 平野勝征 (少拳士)
 古賀哲雄 (少拳士)
 塚本良一 (准拳士)
 神山幸偉 (少拳士)
 高橋秀夫 (少拳士)

首都公団

石渡敏明 (准拳士)
 大塚隆男 (准拳士)
 大坪修治 (准拳士)
 小林成行 (1級)
 宮川勝海 (2級)
 菊地昌市 (2級)

防衛庁

天辰満吉 (正拳士)
 鈴木重忠 (中拳士)
 島村孝 (少拳士)
 隈部圓 (准拳士)
 長田勝男 (准拳士)
 大島清 (3級)

関東高校連盟出場選手

関東学院高校 河原広一 (2級) ————— 北嶋 太 (2級)

関東第一高校 沢津橋 猛 (初段) ————— 井上邦之 (初段)
 秋山賢二 (初段) ————— 藤又郁夫 (初段)

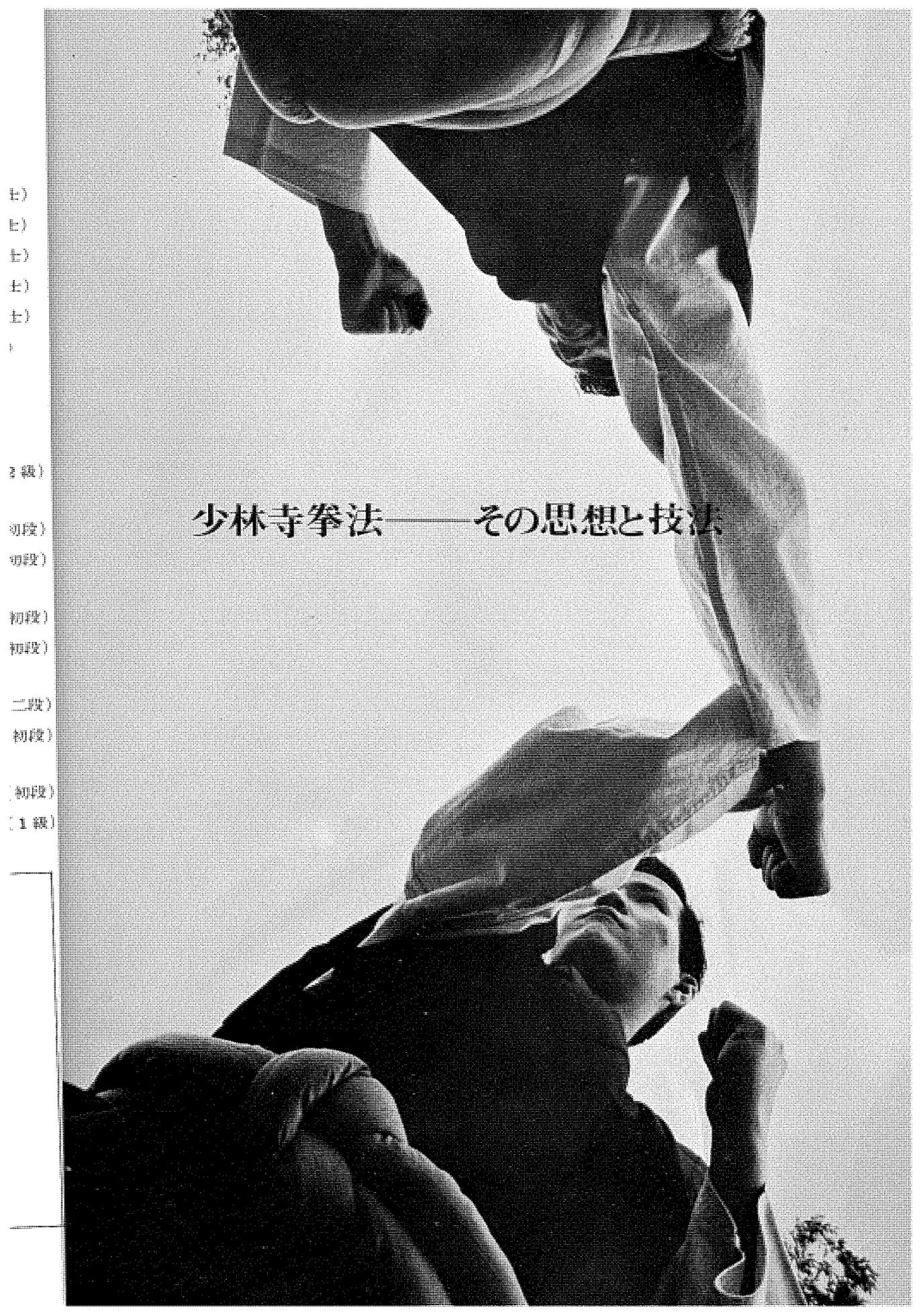
城北高校 斉藤光一 (初段) ————— 藤巻羊司 (初段)
 安竜浩一 (初段) ————— 高橋光夫 (初段)

早稲田実業高校 那須博俊 (二段) ————— 吉田一広 (二段)
 浪水栄一 (初段) ————— 根本明美 (初段)

日大鶴ヶ丘高校 吉田米雄 (初段) ————— 渡辺茂敏 (初段)
 石坂哲男 (初段) ————— 提 猛 (1級)

競技における拳法のあり方

少林寺拳法の技は六百数十に及ぶ技法により構成されています。大会における拳法の技を競う演武では、各自の修練によって得た技の中から一つのまとまった形式に創り上げます。技の正確さ、スピード、間合、演武者の気合、迫力、残心等一体によって表現される演武に対し審判員は採点します。



少林寺拳法——その思想と技法

七)
七)
七)
七)
七)
七)

二級)

初段)

初段)

初級)

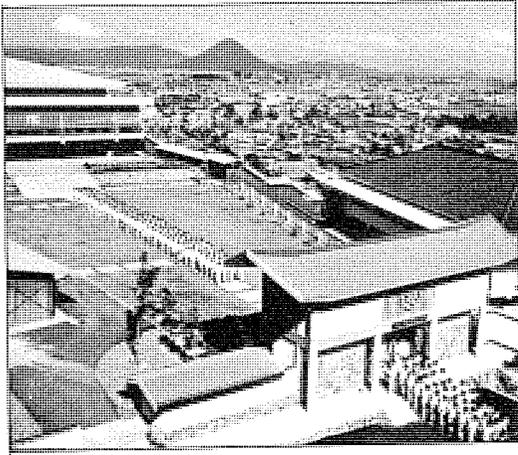
初級)

二段)

初段)

初段)

一級)



少林寺拳法とは何か

ほんとうの強さを求めて——

誰しも強くありたいと願うのは、いつの世にも変りのない人間共通の気持でしょう。少林寺拳法を志す大半の人々の動機も、「強くなりたい」という、この気持に根ざしているようです。もし、私達がほんとうの強さを求めるなら技を磨き(護身練胆)、身体を鍛え(保健体育)、心を養う(精神修業)という三つの目標のどの一つを欠いてもいけません。

少林寺拳法は、この強さの三つの側面—勇気、健康、英智を兼ね備えた真の勇者としての「人間完成」を目指す道なのです。

自己を見つめる——

ところで、身心ともに調和のとれた、ほんとうの強さの根底にあるのは何なのでしょう。それは、自分自身に対する信頼感です。自分自身に信頼を持ってない人間がいつでも見せる、責任を回避する態度、そして、行動と価値の基準を求めて他人の意見に右往左往するふがいの無い状態を思い浮べてください。信頼の大切さがわかります。従って、ほんとうの強さを身につける道は、自己に対する信頼を育てることをおいて他にないのです。

少林寺拳法は、いいかげんに自己を甘やかさない、身心一如のきびしい修行を通して、自己を凝視し、自己の弱きを掘り起して、それと対決しながらほんとうの強さ—自信を身につけようとする、「自己確立」の道なのです。

自分を生かし、他人を生かす——

人間は、誰とも代ることのできない自分だけの人生を生きています。喜びも悲しみも、善も悪も、結局は自分の行為から出て、自己に

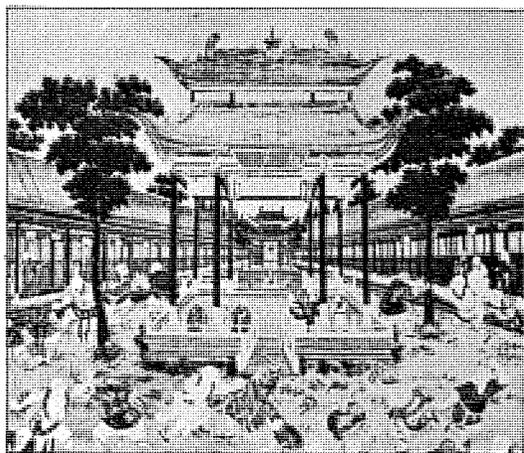
帰ってきます。しかし、人間は、自分の人生を自分一人で生きているけれども、同時に、一人では生きて行けない存在でもあります。とりわけ、自己をとりまいていて無数の人間関係の中で生かされている事実を自覚しなければなりません。自分の幸福を大切にすることは、また他人の幸せをも考える生き方であるということをよく知ることです。少林寺拳法は、敵を倒し、敵に勝つことを目的とするのではなく、拝みあいの修行を通じて、他人の犠牲に立って自己の幸福を得ようとする心棄て去り、人間同志の相互の信頼と愛情による素晴らしい人間関係を確立しようとする「自他共楽」の道なのです。

修行の目的と価値について——

古来、我が国の武道家や宗教家の中には、不思議な神秘力を得ようとして、無意味な修行に精魂をかたむけ、それを武道や宗教の本義と見誤まり、真理を悟ること、心の安らいを願うことをおぼなりにしてきた人が、かなりいます。目的を達成するためには、正しい手段を持たなければなりません。

少林寺拳法は、英智と勇気と健康を備え、人生を逞しく生き抜く自信を身につけ、同時に、他人の幸せをも考えて行動できる慈悲心を養うことを目的とする「金剛禅」「幸福運動」の思想を実践するための手段なのです。単なる武道やスポーツと違う所以がここにあります。つまり少林寺拳法は、自他共楽の平和で豊かな理想の楽土を、この地上に打ち樹てるための、金剛禅総本山少林寺に伝承される宗門の行であるのです。

F
系
仏
の
け
そ
拳
ら
仏
嵩
釈
れ
の
あ
を
弟
発
や
に
自
行
力
た
り
戦
て
重
に
フ
り、
ア
ロ
の
秘
史
上
的
掛
れ
を
つ
少



第1章 少林寺拳法の歴史

印度に生れ、中国に育った少林寺の拳

約5000年以前に源を發する古印度の格闘技は、仏教に採り入れられ、自己確立のための宗門の行、衆生濟度の妙法として独得の發達を遂げ、仏教の布教に大きな役割を果たしました。そのことは仁王尊や各種の明王等の像の形に拳法の構えが多く残されていることから明らかです。そして、今から、1400年前、正統仏教を伝えるため、印度から、中国の河南省嵩山少林寺におもむいた天竺僧菩提達磨は、釈尊の遺教に基く実践の道を説きました。これが今日の禅の源流です。達磨は、靈肉一如の実在である人間の本体を究め、靈の住家である肉体を調御して、病まず屈せずの金剛身を練成させるため、印度拳法を坐禅行と共に弟子達に修行させました。やがて宗門の行と發達した、この少林寺の拳は、自からの生命や財産を守る自衛手段として、広く民衆の間に伝習されるようになりました。この民衆の自衛組織は宋代から清代にかけて、時には権力者の圧政に反抗する民衆組織の中核となったり、また或る時は、異民族の支配に抗して戦う愛国結社の中堅となって中国の歴史にあって重要な役割を果たしました。さらに、19世紀に入って、西欧烈強のアジア侵略が露骨になり、中国に対する植民地化工作も阿片戦争、アロー号事件とエスカレートしたため、各地の秘密結社の連合組織——義和団が総蹶起、史上名高い義和団事件に至ります。この愛国的排外運動が終息した1900年、中国では、これを機に拳棒の修行は厳禁され長い伝統を持つ少林寺の拳は、一応、歴史の表面から姿を

消すこととなります。

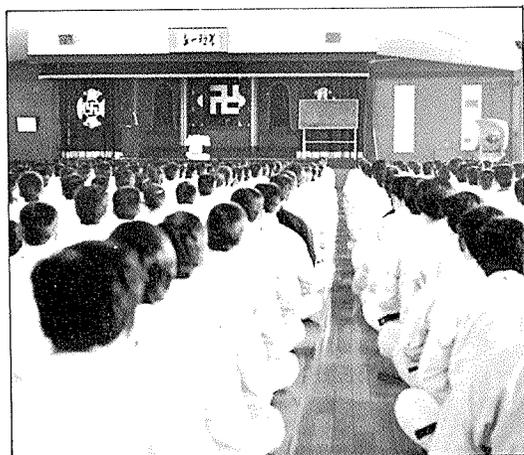
日本への移植と發展

昭和初頭、特務機関の一員として、中国大陸に渡った、宗道臣は、機関と連絡のあった秘密結社の指導者の一人陳良老師の弟子として行動を共にすることとなった—これが、日本人と拳法との初めての出会いでした。彼は陳老師の薰陶を得、そしてこの師を通じて、大陸各地で、各種の拳技の達人、師に教えを受けたのでした。やがて、陳老師の師匠、北少林義和門拳第20代の師家、文太宗老師に邂逅、入門を許され、ついに昭和11年、第21代の師家となりました。

20年8月、敗戦を迎えた、彼は、極限状況下の人間の行動・行為を目のあたりにして、貴重な教訓を得ました。すべて、軍事も、経済も、政治のあり方もイデオロギーや宗教の違いや、国の方針で決まるものではなく、すべて、適用するのは、人間とその人格であると——。そして、すべての事が、人によって行われる以上、祖国日本を平和国家として、再建するためには、自分を信じ、他人から信頼される人間を一人でも多く育てる以外にない、と確信するに至ったのです。

昭和21年夏。祖国、日本に帰った宗道臣は、虚脱感と不信感にとらえられ、祖国を忘れ、日本人であることすら忘れた青少年の群れをみた。やがては輝かしく日本民族の伝統を継承すべき青年達が……彼は、この青年達に、真によりどころとできる思想、最も理性的であり、しかも人間性の深さを究明して、人生を逞しく生きぬく智慧と勇氣と慈悲心を授ける教えは、釈尊の正しい教え以外にないと考え、私財を投じ、香川県多度津町に小堂を建て、道を説きはじめました。

昭和22年。自己確立、自他共楽の釈尊の教えを、拳禅一如、力愛不二の法門として編成し、仏教における力と愛の調和の象徴、仁王尊の神名、金剛神の名をとって、金剛禅と名付け、その思想を實踐する手段として、中国在住中に学んだ各種の拳技を整理、再編し、理論の裏付けを行い、ついに日本少林寺拳法を創案、金剛禅宗門の行と定めたのです。こうして、印度に生れ、中国に育った人間完成の道としての拳法の本質は、1400年の時の流れを経て、ここ日本の地に開花して、いまや40万を数える達磨の子らの胸に脈々と生きているのです。



金剛禪の思想

1 金剛禪はどんな教えか

現代の日本人にとって、仏教とは、もっぱら葬式や法要などの死者儀礼を営むもの、祈禱や読経の功德によって招福除災を祈るものという通念が支配しています。しかし、釈尊の説かれた真の仏教は、善も悪も、苦も楽もすべて自己の行為から出て、自己に還るしかないことを気づかせ、不幸、災難に打ち勝つ力を人間自身の心の中につくらせ、自己を寄りどころと出来る逞しい生き方を身につけさせる教えであります。

真の仏教は、人間はすべて人間であるという点で平等であると説き、拝みあい、援け合いの精神に立って、自分を生かし、他人をも生かす調和の道を教えるものであります。金剛禪は、この釈尊の説かれた仏教の真意を現代に生かし、自分をほんとうに大切に、同時に人々の幸福を心から願うことのできる人間を育てる道なのです。

達磨を祖とする禅宗の系譜は、やがて、転換期を迎え、北漸派(北禅)、南頓派(南禅)にわかれ、後者が風びするところとなり、日本にも禅宗として、その系譜が伝えられました。が、易筋行を主要な行とする北禅は日本には、ついに伝えられませんでした。

金剛禪は、この北禅のあり方を継承するもので、武技としては中国において、すでに消滅した易筋行という古い時代の正しい行を少林寺拳法という新しい時代に相応した宗門の行として編成し、これを自己確立の手段として漸々修学の道を説いているのです。

2 金剛禪の考え方

1 金剛禪の象徴と仁王尊

——調和ということ——

卍のマークは、金剛禪の思想の象徴であり、それはまた仏教の象徴でもあるのです。縦に引かれた「|」は天と地。横の「—」は陰と陽をあらわし、大宇宙とそれに抱かれた人間存在ははじめ森羅万象は、相対立し互に影響しながら、しかも調和を保って存在しているという真理を示し、そして、「+」から流れている「|」は、それぞれの存在が流動し、変化する様を簡潔に示すものです。やがて流動する卍はついに究極の「○」(円)として、宇宙の法則と一体化するのです。

卍を胸にし、仁王尊の姿を生活の中に具現せんとする金剛禪は、要約すれば、調和の思想であると言えます。

調和といい、中道といっても、決して妥協と同義ではありません。金剛禪の調和、釈尊の説く中道は、双方ともに生かす道です。人間関係に於ける調和には、自己を知り相手を知った上で、諸原則をわきまえた行動が必要であり、身心の調和のためには、自己の肉体と精神の長所・短所を見究め、それぞれを正しく発展させる有効な手段を実践しなければなりません。このように金剛禪における調和は、極めて積極的な実践の教えから、成り立つものです。

2 拳禅一如

——肉体と精神の調和——

人間は本来、肉体と精神を別々に切離すことのできない存在です。心と肉体が不可分一体であるならば、人間の幸福もまた、心と肉体のバランスのとれた発達にあり、自己確立の修行はあくまで身心一体でなされるべきです。身心一如の実在としての自己を見究めようとしないところに、特殊な肉体を練成することに専念する武道家、または試合に勝つことだけを目的とするスポーツ選手が生れたり、あるいは、逆に肉体を無視した精神偏重の修養法と称するものが生れたりするのです。金剛禪では、拳は肉体を、禅は精神をあらわし、心の住家たる健康な身体を養い、同時に強くやさしい心を育てるため、「拳禅一如」の修行を第一の特徴としているのです。

3 力愛不二

——勇気と慈悲の調和——

人間生活の思想と行動の根底には、力と愛と

いう二つの相反する側面があります。人は普通、二つを互に相容れないものと考えがちですが、実は、力と愛の調和のないところには、決して正しい生き方は育たないのです。

真理に目ざめ、正義を愛することは、大切なことです。しかし、正を顕現し真をもって偽を粉碎するためには、正義を実践するものに、不正に打ち勝つだけの力の裏付けが必然的に要求されます。力を伴わない正義は無力であり、逆に正義を伴わない力は暴力に過ぎないことを我々は忘れてはいけません。

印度独立の父、聖者ガンジーの言を借りるとく人を許すことは罰することより、さらに雄々しい勇気と力がいり、許しは、すべてに勝ることであるが故に、許しを与えることは、人を罰する力がある人だけに許される——人を許すなら、許せるだけの力の裏付けがなくてはならないしまた、力愛を愛するなら、誤まった道を踏む事を阻止するだけの気魄と厳しさが心要とされます。つまり力を伴った真の愛情が要求されるのです。金剛禅の特徴である「力愛不二」とは、相手に罪を犯させず、自分も犯されず、悪をさとして、善を行なわしめる力の蓄積と発現、勇気と慈悲の調和なのです。

4 自己確立と自他共楽

——自己と他の調和——

いざと言うとき自分自身を頼れる人間が、ほんとうに強い人間です。「己れこそ、己れの寄るべ。己れを措きて誰によるべぞ。良く整えし己れこそ、まこと得難き寄るべなり」と釈尊も説かれ、自己確立が何にもまして、大切なことを教えています。

自己確立を目指すということは、自我を強調することと、決して同じではありません。現代には、「己れしかない」生き方が非常に目立ちますが、他人を無視した自己確立など、全く無価値です。現代人は、膨大な人間関係の中に生きており、どんな自分勝手な利己主義者でも、社会的に孤立して生活することなど不可能だからです。人間が生きるということは、生かされていることに他ならず、従って充実した人生とは、すばらしい人間関係をどれだけ結べるかにかかっているとも言えるのです。人間をひと粒の種子にたとえるなら、そのもつ無限の可能性を開花・結実させるためには、諸種の条件が必要です。この条件を仏教では、「縁」と呼んで大切にします。積

尊の世界観の基本は、すべてのものは縁によって生じ、縁によって滅するということを認識する点にあります。つまりは、自分の人生は自分で拓いて行き、しかも自分に働きかけてくれるさまざまな縁によって自分が生かされていることを深く知ることです。貪ぼるだけを知って与えることの喜びを知らない人間やその社会は、人間同志の不信と疎外感に満ちたものです。人が困っているときには、力になる、何かをしてあげる—この与えることによって生ずる相手の喜びをそのまま自分の喜びとする…真の人間関係は、この利害打算を抜きにした行為の積み重ねの中からしか生れて来ないものです。金剛禅でいう「自他共楽」は、代償をあてにしない奉仕の喜びを知ることにより、はじめて可能なことなのです。

5 生き甲斐を求めて

——求める心と与える喜び——

人間は、生れたくて生れたのでもないし、死ぬのうと思っても、ときが来るまで決して死ぬるものではない—「人間は生かされて生きている」のです。悠久の過去から、未来へと、またミクロの世界から無限大の宇宙へと、時間と空間の織りなす果てしないひろがりの中に、その微細な一点として、しかし、人間として巨大な生を、大きく深い心によって生かされています。この事実気がついたとき、人は生きている日々が、否、刻一刻が貴重であり、一期一会の尊い瞬間であることを認識するはずです。

人間として、真に生き甲斐をもつことは、決してやさしいことではありません。それは、たえず努力して、自ら求めて行くべきものです。求める心に立ったとき、そこにはじめて生きる喜びを持つことができ、同時に自らの弱さや執着の深さにも気づき、自己を生かしている根源的なもの（金剛禅ではダーマと呼んで、信仰の中心としている）に眼を向けるようになります。ここに、必要あって生かされているという自覚に支えられて、力の限り、世のため、人のために働く使命があるのです。謙虚に、しかもゆるぎない自信をもって生を尊び、自分の幸福を考えながら、他人の幸福のためにも生きられる人間になること。求める心と与える喜びに溢れた人生—それが真の生き甲斐というもののなのです。



金剛禪運動の展開

1 幸福運動として

人はみな幸福を求めて生きています。従って人間の性格によって幸福の内容が違い、幸福の質が違って当然なのです。が、一般には、ぜいたくな暮らし、物質的に満ち足りた生活が幸福のすべてと考えられがちです。しかし、物質面にだけ幸福を限定することは、危険なことです。物質的な幸福は、主として感覚によって得られます。感覚は蓄積できないので、いくら満たしても充分だということがないからです。このことで、物質的な充足が幸福に必要な条件であっても、絶対的条件でないことが、明らかです。しかし、現代の日本では、この物質的欲望を満足させる傾向が強く見受けられ、精神生活の方が貧しいまになっており、ために調和のとれない分裂症的な傾向が強く、大きな歪みが生じています。現代の不幸は、たんにこの物質と精神の不調だけにあるのではなく、資本主義と共産主義、企業家と労働者、企業と住民、そして、民族と国家の利害、世代の違いが自我をむき出しにして対立、激突していることにあります。その結果として戦争があり、破壊があり、混乱があり、頽廃があるのです。この互いに相手の立場を認めず、敵としかとらえられない不信に満ちた現実の世界。そこに明るい未来を拓くのは、制度や機構ではありません。人、人、人、すべて人間にあるのです。

物質両面に調和のとれた平和で豊かな社会をつくるためには、真の幸福をわきまえた人間自信と勇気と慈悲心を持った行動力のある人間、また自分の幸福を大切に、他人の幸せ

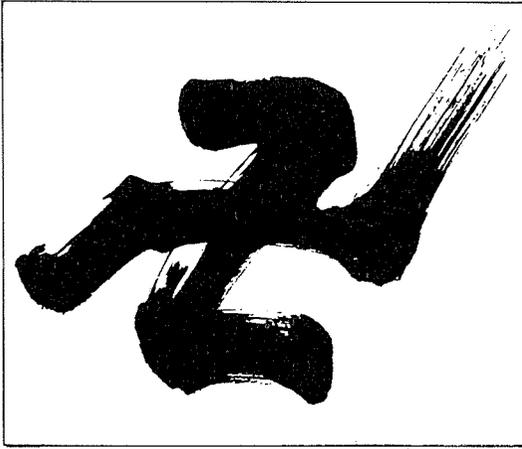
をも大切にできる人間が、どんどんふえていくことです。そうすれば社会は必ず良くなる。また、それしか社会を良くする道はないのです。金剛禪運動とは、金剛禪の思想と実践を通じて、現世に理想の楽土を打ち樹てるために、そういう逞しい人間を一人でも多く育て、世に送り出す運動なのです。

2 真の愛國運動として

戦前の日本には、国家権力をはじめとするタテの支配関係にしばられた、いやいやながらの団結であったにしろ、とにかく団結がありました。天皇制イデオロギーに支えられた忠君愛國という愛國心もありました。しかし、それは、あくまでタテのつながりだけのものであって、ヨコのつながりの全くない団結でした。敗戦によって、団結の根元であった天皇制が崩壊すると、一人ひとりの日本人は、糸の切れた数珠玉のようにバラバラになってしまいました。権力だけで国民を統制しようとしたところに、この愛國心の瓦壊の原因があったのです。真の人間同志の血の通いあった、心のあたたまる連帯意識のないところに真の愛國心も、団結も決して生れないという左証です。いまこそ、すべての日本人が、人間の尊厳を自覚した上で、同胞愛や郷土愛に根ざした民族意識とそれに立脚した祖国愛を新たに育てあげるときです。さもなければ、日本人の心の空洞は永久に埋めることが出来なんでしょう。

いまや科学の発達は、時間と空間を極度に短縮してしまいました。人類社会は日本を含めて、やがては一つの共同体になる必然性をもっています。

各々の民族や国家は、それぞれの伝統や文化に基く生活を営みながらも、相互に協調し、融合し最新科学の恩恵に浴して、豊かな生活を確立し、人間の靈性にもとづく高い道義心によって調和された平和で豊かな理想世界へと発展すべきです。それこそ、人類にとって最終最高の理想ではないでしょうか。金剛禪運動は、そのような真の愛國心を育てあげるための運動です。



行としての少林寺拳法

少林寺拳法は、繰返して述べてきたように、金剛禅宗門の行であり、自己を確立し、自他共楽の理想境を達成するための手段です。その理解なしに、ただ技術を学ぶことのみ在意義を見出したり、相手を倒し、敵に勝つことのみを目的する闘争の手段として、修行することは無益であるばかりでなく、有害でさえあります。古来、武術の勝負において、ほんとうに勝つということは、数多くの実例が示すように、相手を殺すことを意味していました。相手を殺さねば結着がつかないなら、素手より刀や槍が、刀や槍より鉄砲がはるかに有利です。ミサイルの性能が競われ、大量の核兵器が準備されて、一度に何百万の人類が殺せる現代。この時代に生きる青少年が、結果として、殺人をしない限り確定しないような武道の勝負に勝つために、何を苦しんで、格闘の技術を修業しなければならないのか、また、人を倒し、人に勝つことのみを目的とする格闘術が、孤立しては生きて行けない現代の社会生活にどれだけの意義を持つのでしょうか。いたずらに争いを求め、相手を倒し、自己の名誉や自己の幸福のみを追求するのはなく、敵に勝つより己れに克つことを修め、人を生かし我も生き、人を立てて我も立てられる道—それが、真の武道と言うものです。武という文字は、もともと「二」つの「戈」を「止」めるという三字の組み合わせからなる会意文字であり、人と人との争いを止め、平和と文化に貢献する和協の道を表したものであることを、私達はかみしめる必要があるのです。宗門としての少林寺拳法も、日常の生活の中

に実践してこそ道なのであり、実際に道場で拳禅一如の修業と真剣に取り組むことを通してしか身心一如、自他共楽の思想を会得できないものなのです。

1 そのあり方

合掌礼

少林寺拳法を修行するものは、日常の挨拶、演武や練習の礼式を、すべて合掌礼で行います。およそ、人の交わりは、礼に始まり礼に終るものであるべきです。礼が正しければ姿勢も正しく、心も自ら正しくなるものです。心正しければ威儀自ら備わり、その行う礼は壮厳にして隙のない立派なものとなり、争いも未然に防がれ、戦わずして、敵を威服させられるものです。釈尊は、お互に人間として、対等の形で相互に拝みあう「合掌礼」こそ最高の礼式であると教えられています。少林寺拳法は、この釈尊の遺教を継承する宗門の行として行うものですから、その礼式も、敬愛と互譲の精神が形にあらわれる合掌礼なのです。

2 守主攻従

少林寺拳法の技は、原則として防御からはじまっています。そもそも、少林寺拳法は、正義、正法を守るため、あるいは無法者の暴力から隣人や自己の安全を確保するために、破邪の拳としてのみ行使するものですから、たとえいかなる理由があろうとも自ら先に人をうつべきでない—という仏弟子としての論理にもとづいているからです。守主攻従を説く、もう一つの理由は、まず不敗の体勢を確立して、後手必勝の機をとらえるための、主として技術的な心がまえからです。先に手を出さないで、相手の動きが見究められるという時、それが、結局は勝つことにつながるのです。

3 組手主体

少林寺拳法の修行は、いかなる技を演練するときも、必ず二人ずつ組んで行うことを原則とします。もちろん、基本動作の一部として、また忘れないために組み立てられた基本法形として単独で演練することもあります。それはあくまで従です。日常の練習も、演武のときも、相対演練をたてまえとしています。何故なら、武として拳を用いる場合、必ず相手が居り、相手と格闘するときには、動く相手に対する種々の条件が必要であり、それらの術技は、単独では絶対に会得できないからです。

また、少林寺拳法には、通常勝ち負けを争う試合がありません。昇段試験も試合をして何人抜いて何段というものではありません。大会でも試験でも、技の正確さ、巧拙などが採点されて決ります。単独でなく、組手主体であるので、相手とペアで採点されます。もちろん、平素の練習も交互に技をかけ合って、研究しあい、楽しみあいながら行なわれます。従って、いわゆる武道に見られがちな、自分以外は敵と考えるような孤立感はまったくなくなり、知らず知らずのうちに相手を立てる習慣を育てられ、協調性のある人柄を養うことができます。

4 不殺活人

単に己れの強さを誇示するためや、自我を通すために、あるいは名声を得るために、人を殺傷したり、争いを求めることは、人間として絶対に許されないことです。一拳必殺を呼号していたずらに人を殺傷する技術の習得に血道をあげるのは、争いを止め、和協に至らせることを目的とする武の本義にはなほだしくもとるものです。無法者に対しても、その非を認めさせ、正道に就かせるための説得を伴ってこそ、武を用いた意義も生きてくるのです。少林寺拳法は、己れの身心練磨の行法であるばかりでなく、善良な人々を護り、正義を守るために、拳をふるう場合でも、人を殺さず、傷をつけずに、しかも完全に戦意を失わせてしまう効果的な法術です。そして、一拳、暴力を挫いた後、相手はその非を悔い、正道に赴むことを誓えば、これを諭して許すという、一拳多生、力愛不二の活人拳なのです。



拳法の技

少林寺拳法の技は六百数十に及ぶ技法により構成されています—その一部の技を紹介—



三合拳



三合拳

剛法の中段単攻防を主体とし、突き蹴り等の中段攻撃に対して手で受け足で反撃する技法で鶴立拳と共に足技の多い法形である。

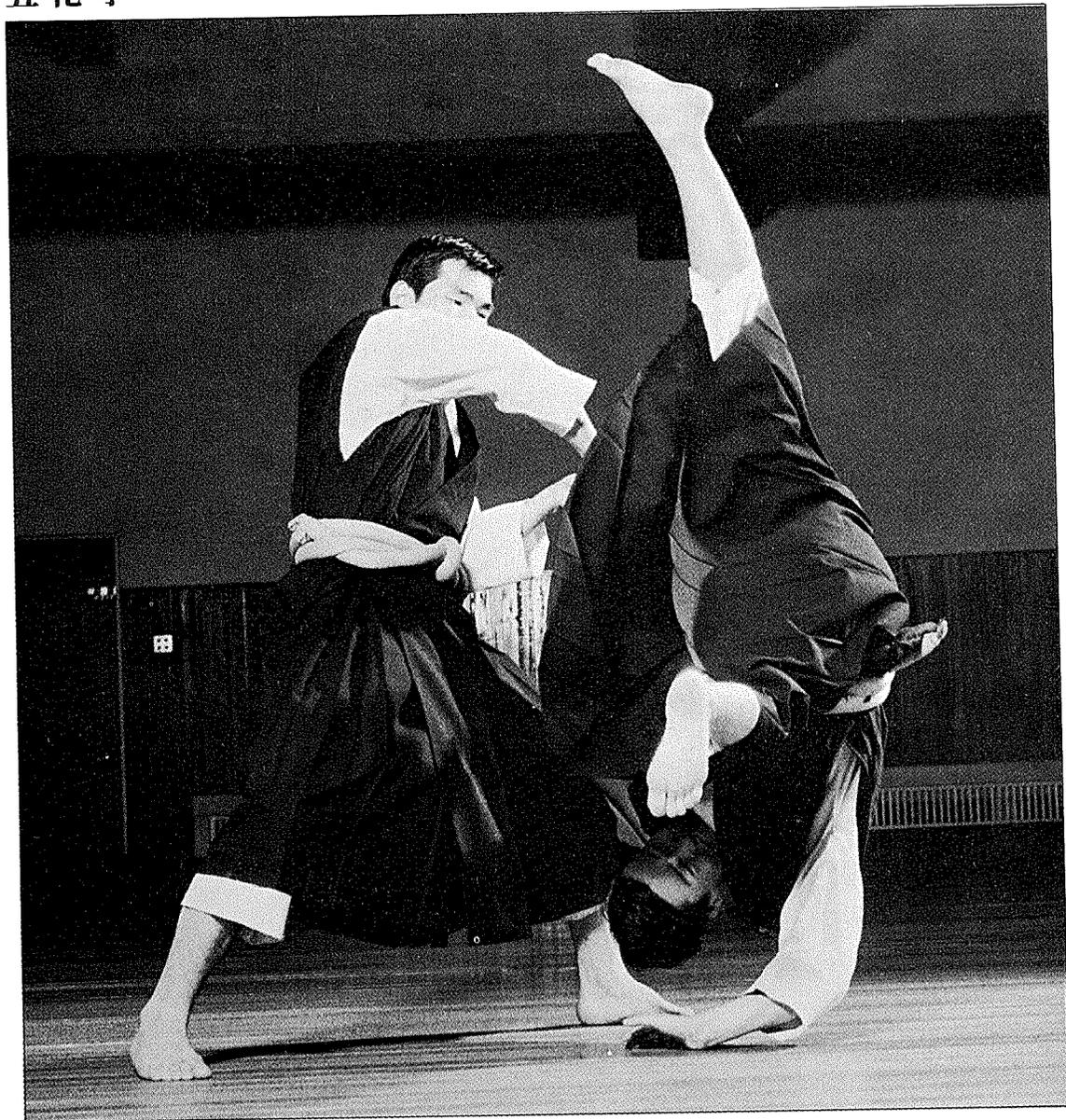
竜華拳



竜華拳

龍王拳と同様、人体の諸質を応用した、手捕に対する投、逆の返し技を主体とした北少林柔法の主力である。

五花拳



五花拳

突く、蹴る等の剛法に対し受け身より投げ技にはいる剛柔一体の投技である。技により紅花、梅花、白蘭、牡丹、桃花の五花に別れている。

白蓮拳



仁王拳



鶴立拳

白蓮拳

北少林剛法段攻防の基本形であり受と反撃が、片手で一動作に近い速さで行なわれる二段用法を主体として、形が美しい。

鶴立拳

北少林基本攻防の中で、脚の攻防を主体とする特殊な技法であり、総ての形が片足立で膝受けから蹴返す波浪脚撃より成っている。

天王拳

仁王拳

北少林各派の中に伝えられていた剛法を主体とする徒手格闘の中から、上段攻防を中心とする法形を集めて編成されている。

天王拳

連撃、連受、段撃、段受等、白蓮系の剛法連攻防の基本形であり、一気合で二連撃を加える又は受ける技法を特徴としている。

帝王拳



竜王拳

帝王拳

同じく白蓮系の形であり、天王拳の上段に対し足技より始まる連攻防である。



羅漢拳

竜王拳

挺子の理、呼吸の理、反射神経、筋骨の変化等の性質を応用して手捕に対する抜手技を主体とした剛柔一体の技法である。又これは北少林柔法防技の基礎である。

羅漢拳

北少林柔法の主系を成す重要な技法で袖とか襟をとられた時、瞬時に逆をとる羅漢拳独特の逆技や本逆投が主であり精妙な技法である

支部プロフィール



東京応化支部

私達東京応化支部は昭和41年に支部長の指導で拳法部が設立されました。

設立当時は練習する道場もなく、会社の屋上で足の裏をすりへらしながら練習したものです。道具類もなく、雨の日でも練習の出来る道場を借りる為に、色々な場所に足を運んで道場をさがすなど、支部長も大変苦勞した事と思います。

今では会社の従業員で組織している「親和会」という会で、部として認められ毎年予算をいただき道具類を購入しています。

私は最初、少林寺拳法とはどんな練習をするのか、又、どんなものなのか全くわかりませんでした。でも多少興味があったので友人とともに入部したわけです。

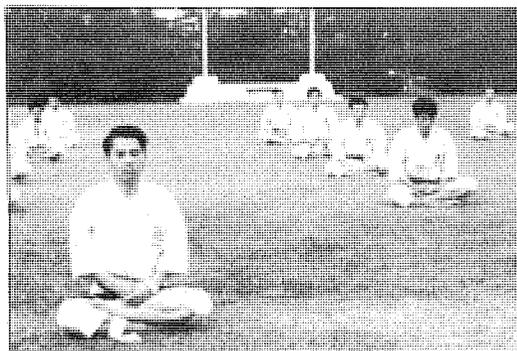
最初は基本である突きにしても、なかなか出来ず自分自身が嫌になった位でした。冬の寒い時などは受け身がうまく出来ず随分傷を作ったものでした。

又何人かは退部して行きましたが、そんな時は少しさびしくなります。でも今は続けて良かったと思っています。

なぜかと言いますと、練習の無い日は何もせず過ごしています。練習日に法話を聞き、技をする事で自然自分自身をきびしくすることで、精神的にも、肉体的にも自分に自信がいて来たからです。

又又、他人からも信頼されるようになりました。最近では小学生が練習に参加するようになり子供達と一緒に練習出来る事も大変楽しく、週三回の練習日も賑やかです。

私達の支部は人数も少ないがこれからも支部長以下、部員一同少林寺拳法の精神に従って精進して行くつもりです。



労働省支部

昭和44年4月、東京は神田駅前の雇用促進事業団(労働省外廓団体)で、少林寺拳法の精神に魅せられた数人の同志がささやかな同好会を発足させた。

別に宣伝をした訳でもないのに同年9月に、「(社)日本少林寺拳法雇用促進事業団支部」として正式に認可された時には、支部員、同好会員あわせて30数名の多きを数え、従来の武道には見られない「自己確立と自他共栄」の哲理を易筋行を通して、実践し修業することが多くの人々の共鳴を得ることを如実に証明したのである。

更に44年秋、管長先生の特命を受け、関東連合会理事長内山先生の指導のもとに雇用促進事業団支部が推進母胎となって全国実業団連盟が発足することになり、昭和45年4月1日付で規約が制定されるに至った。

支部活動もそれに呼応して活潑化し毎年、夏の合宿や運動会などを初め、職場でも常に率先して行動する拳士の姿がみられ、事業団に拳法部あり、といわれるほどエネルギーな発展をみせ、それが更に新しい部員の増加となってはねかえってきた。

昭和48年2月1日、雇用促進事業団支部は発展的解消し、労働省、雇用促進事業団、気象庁の三ヶ所に錬成道場をもつ「労働省支部」と名称変更を行なった。

われわれが全剛禅運動の実践を通じ、人間相互の「和」を確立するため「労働省支部」の名称の下に大同団結し、大きく前進するための意欲がここにある。

新しい支部旗の下にわれわれは「初生の赤子」として、更に全剛禅運動の尖兵となることを誓い、支部紹介に代えさせていただきます。

日本少林寺拳法連盟所在地

宗教法人 金剛禪總本山少林寺
 社団法人 日本少林寺拳法連盟總本部 〒764 香川県多度津局区内 Tel. 08773 (2) 4141
 学校法人 日本少林寺武道専門学校

日本少林寺拳法連合会

北海道連合会	西内 一	〒066	北海道千歳市末広町中区3の20
東北連合会	太田達雄	〒983	仙台市銀杏町20の8 Tel. 0222 (91) 5065
関東連合会	内山 滋	〒151	東京都渋谷区幡ヶ谷1の21の8 Tel. 03 (460) 1433 (東京・神奈川・千葉・埼玉・栃木・群馬・茨城・新潟)
東海連合会	高橋 昇	〒462	名古屋市北区鳩岡町2の35 Tel. 052 (912) 5663 (愛知・岐阜・三重)
関西連合会	森 道基	〒657	神戸市灘区篠原中町1の506 Tel. 078 (86) 1478
中国連合会	義若道恵	〒706	岡山県玉野市和田11の1 清輝二寮
四国連合会	水沢春夫	〒760	香川県高松市花園町国鉄アパート
九州連合会	中村秋尚	〒802	北九州市小倉区日明磯の丁5の2の37 Tel. 093 (57) 6824

学 生 連 盟

東北学生連盟	田中正春	〒982	仙台市八木山弥生町15の4 徳永方
関東学生連盟	木津 誠	〒171	東京都豊島区南池袋1の11の8 大川方
東海学生連盟	若杉 満	〒488	愛知県東春日井郡旭町新居4671
関西学生連盟	福島政輝	〒572	大阪府寝屋川市香里新町17の9
中国学生連盟	亀山幹男	〒738	広島県佐伯郡五日市町2029の2 松尾方
九州学生連盟	金子 稔	〒803	北九州市小倉区船町71南山ビル二階

実 業 団 連 盟

松本長實 〒100 東京都千代田区大手町1の3の1 労働省内

高 校 連 盟

和久井光啓 〒167 東京都杉並区久我山1の10の3

祝

全日本少林寺拳法全国実業団連盟演武大会



激動する幕末のさなか
青春の夢と情熱を求めつづけた
男たちのロマン——

(木)ヨル8時

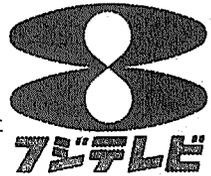
新選組

誠



近藤 勇……鶴田浩二
土方歳三……栗塚 旭
沖田総司……有川 博
永倉新八……伊吹吾郎
山崎 燂……山城新伍
山南敬助……日下武史
井上源三郎……田崎 潤
藤堂平助……中山克巳
齐藤 一……左右田一平
原田佐之助……河原崎長一郎
藤田精一郎……藤岡 弘
桂 小五郎……菅原文太

提供=森下仁丹/大同毛織/野田合板/
不二サッシ/HOYAメガネ/リンレイ/各社





疲労回復・肩こり
薬物中毒・二日酔いに

L-システイン配合・疲労回復解毒剤

エスナイト



エスエス製薬

美しく、
さわやかな環境をつくる

業界のパイオニア

リンレイ
ワークス



株式会社 **リンレイ**

本 社 東京都中央区銀座東4-10-13 TEL 03-541-4851(代)

秦野工場 神奈川県秦野市曾屋180 TEL 0463-81-5455(代)

視聴覚の利用技術は
我が国唯一の専門公益法人 **AVCC**

■ 企画・設計・施工・利用のご相談は

Hardware

AVCC方式による近代教育施設

映像装置、(ビデオ装置・映写装置)・音響装置・集団反応装置・個別学習装置・語学学習装置・情報システム装置・MIS装置・視聴覚システム装置

Software

教育訓練用映画・スライド・T/P

ビデオ・テープ教材

Software

『月刊視聴覚』 280円 (全国書店販売)

視聴覚技法入門 1,500円 (只今好評発売中)

Software

■ 視聴覚技法研究会会員募集中 (年会費6,000)
<会則贈呈>

■ 視聴覚トレーナー養成講習会 (VTR、OHP、映画、
スライド活用)

■ 視聴覚講習会講師派遣 (専門講師多数)

視聴覚システムを推進する 財団 法人 **AVCC**

東京都文京区後楽2丁目1番17号 尾崎ビル ☎ 112
電話 03 (814) 7821 (代)

大阪市天王寺区清水谷町19-10 新小橋ビル ☎ 543
電話 06 (761) 2106

我等は

法を修め心身を練磨し

同志相親み相授け相譲り

協力一致して

理想境建設に

邁進する

東海大学第二工学部少林寺拳法OB会

- | | | |
|------------|-------|----------------------|
| 宮地建築設計事務所長 | 宮地 巖 | 葛飾区東水元1の6の9 |
| 宮川建築設計事務所長 | 宮川 俊朗 | 江東区木場3の6の24 |
| 三鷹支部支部長 | 鷹取 英夫 | 小金井市貫井北町3の33の22 |
| 茂呂建築設計事務所長 | 茂呂 一美 | 杉並区高井戸西2の18の26 M.Kビル |
| 三鷹道院道院長 | 林 広行 | 世田谷区上祖師谷6の17の18 吉岡荘 |
| 小野建築設計事務所長 | 小野 繁 | 葛飾区亀有1の23の16 |
| 厚木道院長 | 日當 喜澄 | 世田谷区北沢5の27の16 清風荘 |

少林寺拳法

その思想と技法

金剛禪総本山少林寺管長

宗道臣著

人間尊重と身心調和の思想を説く拳禪一如、力愛不二の法門——自分を生かし、他人を生かして、現在のこの瞬間を逞ましく生きぬく自己確立の道——**金剛禪**の教理を詳しく説き明かしながら、同時に、1,000枚以上のストロボ分解写真によって試みた、剛法及び柔法基本技の画期的な技法書。



定価 3,500円 (送料 240円)

A 4判(21cm×30cm)/264頁/総グラビヤ

会場で展示即売致します。実物をごらん下さい。

ご注文

■近くの書店にご注文下さい。店頭がない場合でも取り寄せてくれます。

■書店遠隔のためご不便の方は、送料をそえて現金書留または振替(東京 18495番)で直接小社営業部宛にご注文下さい。現金到着次第発送致します。

■くわしいカタログをご希望の方は小社までお申し越し下さい。

本書の英文版も発売中です。定価 3,400円 (送料 240円)

欧文・和文
国際図書出版

株式会社 日貿出版社

JAPAN PUBLICATIONS, INC.

東京都千代田区猿樂町1-2-1 新日貿ビル内
電話 (03) 292-3751(代表) 振替東京 18495番

第四航空群支部

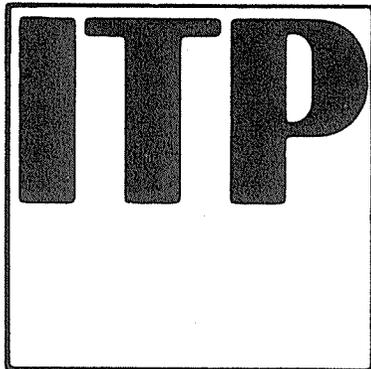
千葉県柏局私書箱28号 海自第4支整航整隊
TEL 0471(91)2321 内線 278

支部長 多々良秀澄
主将 萩原俊次

他 拳士一同

印刷のことなら企画から…

アイデア テクニック プリント



株式会社 石田大成社印刷所

- ★営業本部 東京都文京区湯島1-9-10 電話(815)8211(大代)
- ★生産部 東京都千代田区外神田2-18-2 電話(255)8911(代)
- ★デザイン室 東京都中央区銀座1-9-6 電話(561)7331 ~ 2
- ★技術研究センター 千葉県市川市東菅野4-23-3 電話(36)5095(代)
- ★京都 京都市中京区丸太町通小川西入 電話(231)4111(代)
- ★名古屋 愛知県稲沢市幸町121 電話(32)6221(代)
- ★大阪 大阪市南区北炭屋町10 電話(271)5091(代)
- ★クリエイティブ大阪 大阪市南区北炭屋町13林ビル 電話(251)7281 ~ 2

東京石神井道院

場 所 練馬区下石神井1丁目みなみ幼稚園2階大ホール

道 順 西武新宿線上井草駅下車徒歩5分

日 時 毎週月、金曜日 6:45分～9:45分迄

連絡先 練馬区下石神井1～211(早川方) TEL(399)2128(さぬきや方)

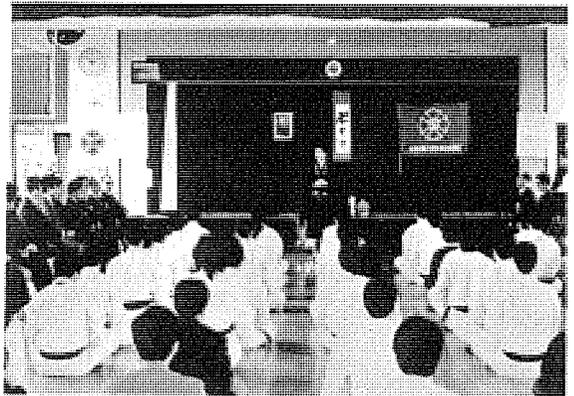
道 院 長 真 田 玉 雄

副道院長 明 慶 道 昭

道 場 長 佐 々 木 啓

助 教 大 川 博 美

〃 真 鍋 守



活力と健康の素

焼肉会館 大成園

斯界の老舗の本格宮廷料理をどうぞ!!

御会食、御宴会に落ち着いたお座敷を御利用下さい。

ランチタイム 12～2時まで

焼肉定食(ライス、スープ、ヤサイ盛合せ、漬物付) 300円

五目飯(スープ、漬物付) 200円

東京都豊島区池袋2-5-3 TEL 985-8114
池袋西口 ローターリー群馬銀行 裏 TEL 985-8124

神奈川県宅地建物取引業協会々員
神奈川県知事免許(1)5519号

不動産取引業 **奥野商事**

代表者 **奥野武司**

事務所 横浜市緑区長津田町1798(長津田駅前 第1勧業銀行向)
TEL 045(981)9595(代)

輝く伝統、規律厳正
勉強も運動もねばり強く



着
勤
自

実
勉
主

城北中等学校

東京都板橋区東新町2丁目28 (956) 3157

東京都中央卸売市場



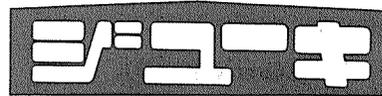
中央魚類株式会社

取締役社長 菊池長右衛門
取締役副社長 片桐栄七

本社 東京都中央区築地5-2-1 <築地市場内> 電話(大代表)542-1111
支社 東京都足立区千住橋戸町50 <足立市場内> 電話(大代表)888-2111

祝 日本少林寺拳法実業団大会

工業用ミシンのパイオニア



 東京重機工業株式会社

営業品目

工業用ミシン・家庭用ミシン・編機
家庭用電気製品・縫製附帯機器・電子機器

 **東京重機工業株式会社**

本社・工場 東京都調布市国領町8-2-1 電話(480)1111(大代表)
郵便番号 182

まごころにふれる
ハイセンスな贈物

根強い人気の銅鉄器工芸美術品

輸入バッグや各種ベルトも揃いました。

贈答品、記念品、PR用品、アプローチ用品

窓口サービス品の御用命は

株式会社 IMSギフトセンター

〒105 東京都港区新橋6丁目8番地7号

植久ビル

電話 03-(432)-2394番

Super Fine Chemicals TOKYO OHKA

祝

第1回全日本少林寺拳法
全国実業団連盟演武大会



東京応化工業株式会社
社長 向井繁正

新技術に生きる 東京応化

本社 川崎市中原区中丸子150
(電) 044-41-2131(代)

〈カッパ・ブックス〉の連続ベストセラー

秘伝 少林寺拳法

● 禅の源流・中国伝来の護身術 宗道臣【¥390】

“後手必勝”の理想的な護身術・少林寺拳法は、また人間をつくる秘法でもあるのだ。その精神から実技の奥義までを、日本でただ一人の正式継承者である著者が初公開。



● 著者のことば…

これまで、わが国に正しい少林寺拳法の姿が紹介されたことは一度もなかった。後手必勝の理想的な護身術・少林寺拳法が、一人でも多くの人に正しく理解されるように…との念願で書いた。

東京・文京・音羽 2 光文社

正久保商事株式会社

不動産部・つり堀・プール

代表取締役社長 風祭 清

東京都練馬区桜台 3 丁目 35 番地
電話 (991) 1147~8 正久保ビル

本場の味サッポロラーメン

札幌本店

本店(渋谷東映前) (409) 0311
支店(道玄坂センタービルB1) (461) 6412

関東二部学生少林寺拳法連盟

委員長 望 月 俊 治
副委員長 黒 瀧 茂
幹事長 石 川 孝 司
会 計 熊 本 政 之
ほか拳士一同

日本少林寺拳法鷺沼道院 (川崎市鷺沼1-7-1)

顧問 持 田 義 治
道院長 松 木 長 實
幹 事 伊 東 克 佳
" 植 松 武 佳
ほか拳士一同

勝田台道院

道院長 小野寺 米蔵
他 拳士一同

連絡場所 千葉県八千代市勝田台 2 の29の12

夏

さわやかなウール
軽快なダクロン
が快適です

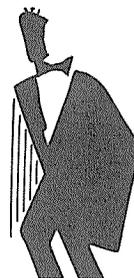
高級注文紳士服



銀座

アルゴ

銀座店 571-5429
本 社 862-2271
八重洲・仙台・大阪



街路・工場・広場投光・特殊に

sanden サンデンの照明器具

株式会社 山田製作所

本 社 埼玉県川口市青木 3 丁目 11 番 3 号
営 業 所 東京都文京区湯島 3 丁目 1 番 2 号
TEL 0482 (52) 5 6 7 5

学生服，通学用コート専門店
丈夫でシワになりにくい

国電，都電，大塚駅前

株式会社 **今井洋服店**

東京都豊島区南大塚 3 - 52 - 10
TEL (983) 4151 (代表)

関東第一高等学校少林寺拳法部

顧 門 林 正
監 督 秋 月 孝 夫
主 将 秋 山 賢 二

他 拳士一同

日本少林寺拳法秦野道院

道院長 谷 村 斌

練習場 秦野市富士見町 1 の 1 本町中学体育館
練習日 月 水 木 PM 6:00~9:00

祝大会

日本少林寺拳法

千葉県連合会一同

連絡先 千葉県流山市江戸川台西2-157
TEL 0471 (52) 4344番

祝第一回日本少林寺拳法実業団大会

とんかつ さくら亭

スナック喫茶 ピノキオ

横浜市金沢区町屋町69 TEL 045(781)3272-3

祝第一回日本少林寺拳法実業団大会

自動車及各種機械部品加工
電気機器部品加工 各種治工具型加工

(有) 林 製作所

逗子市池子2-10-4
TEL 0468 (71) 5045

祝第一回日本少林寺拳法実業団大会

加嶋塗装工業

横浜市金沢区町屋町111
TEL 045 (781) 4706

祝 実業団連盟全国大会

労働省支部

名誉会長 中田 定士
会長 遠藤 政夫
副会長 富田 晃三
相談役 木村松太郎
顧問・監督 松田欣一郎
顧問 新井 宣明

支 部 長
労働省道場長(副支部長)
雇用促進事業団道場長(")
気象庁道場長(")

松木長實
加藤幹二
川人 真
安在孝夫

祝 全国実業団連盟演武大会

東京電気大学第II支部

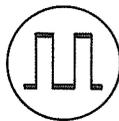
支部長 望 月 俊 治
副支部長 佐 藤 覚
主将 松 本 幸 治
副将 山 崎 道 雄 ほか拳士一同

祝 第1回全日本少林寺拳法全国実業団演武大会

YEW

横河電機 工業計器・電気計測器・プロセス・
オートメーションシステム

輸入機器 インバータ・コンバータ・トルクモーター・圧力センサー
取扱い品目 ショックインレーションマウント・その他輸入機器



吉沢精機工業株式会社

本 社 〒113 東京都文京区本郷2丁目16番13号 電話東京(03)815-0611代表
西部営業所 〒189 東京都東大和市芋窪249 電話(0425)61-4151番(代)
長野営業所 〒380 長野市東鶴賀町49の1番地 鶴賀ビル 電話長野(0262)35-2323番

祝 第一回全日本少林寺拳法全国実業団演武大会

日立熱器具(K・K) 柏工場

文化体育会 少林寺拳法部 TEL 柏(31)1111(代)

日立柏支部 支部長 高木 俊知

COOL 73

涼しさを、いま伝える男の服

メッシュスーツ

四季の服装プランは
農林引済会売店内

紳士服コーナーで

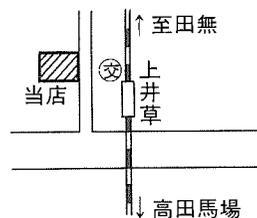
TEL 502-8111
内線 3244

生まれも育ちも香川県の拳士の経営するお店

本場手打うどん さぬきや

とってもおいしい本物のさぬきうどん
ぜひたべにきて下さい

西武新宿線上井草下車
TEL 399-2128



富士三鷹支部

支部長 渡辺和夫

道場 三鷹市大沢3-9-6 富士重工内

練習日 月、水、金 6:00~8:00

連絡先 世田谷区千歳台1-7-10 (483) 2185

拳法衣、防具胴、袋、棒

水道橋商会

◎ネーム刺繍無料サービス

水道橋験東口前 TEL (811) 5985

“洋服はなんといつても仕立が肝心”

国産一流銘柄・英国製品取揃

注立服 テーラー **千代田**

農林省生活協同組合第一売店 内 3239

本店 **三省堂洋服部**

神田 神保町1-1 293 8118

日本少林寺拳法千葉県連合会

TEL. 0471(52)4344

理事長 **秋月正臣**
(僧名)

株式会社 **拳友**

TEL. 0473(26)4537

取締役社長 **秋月正行**
(本名)

日立指定店

福禄 スポーツ

☎130 墨田区石原1-31-7
TEL. (622) 8389

各種印刷・印章

KK安藤雄山堂印刷

板橋区坂下2-15-3地下鉄蓮根駅前通り
TEL. (966) 9441 (代)

三浦海岸

海の家
民宿
釣舟宿
地曳網

やませ

相沢幸一

三浦市南下浦町上宮田3504
TEL. 0468(88)0350

東京重機工業
少林寺拳法部

支部長 **栗山安生**
他拳士一同

やきとり・季節料理

大衆酒蔵

笹塚 **千歳鶴**

京王線笹塚駅前観音通り TEL.466-4465

おにぎり・お茶漬・季節料理

ふる里の味 **おゆき**

文京区千石4-12-4 TEL.944-5973
(国電巣鴨駅下車 宮下公園際)

賛助会員

東京応化工業(株)

専務取締役 伊藤毅雄

三井造船(株) 千葉造船所

取締役所長 前田和雄

東京都荒川区

武岡 広

防衛庁支部松戸自衛隊支部

中島慎治

財団法人 都市計画協会

中村米廣

首都高速道路公団
緒方十三雄
桶沢達雄
桐谷清

首都高速道路公団
西富士雄
須藤久雄
峰岸光永

首都高速道路公団
井川滋郎
松川正美
松井弘

首都高速道路公団
菊田聡裕
城宏明
大日向邦夫

首都高速道路公団
重田一男

首都高速道路公団
小阪祐義

首都高速道路公団
沢田睦夫

首都高速道路公団
塚田博

富士三鷹支部
倉田祥八

富士三鷹支部
関矢敏夫

富士三鷹支部
大野和

富士三鷹支部
森久保留次

富士三鷹支部
渡辺和夫

日立熱器具(株)柏工場
少林寺拳法部顧問
山口和夫

練馬道院
中平新一郎
中井一美

大蔵省印刷局支部
鈴木次郎

大蔵省印刷局支部
横山実

労働省
労働市場センター
次長
木村松太郎

奈良県職業安定課長
新井宣彦

東京都文京区
大野木憲三

鈴木
シャッター工業(株)
植田俊昭

全日本少林寺拳法連盟支部紹介

(支部名)	(道場所在地)	(支部長名)
北海道(9支部)		
東千歳自衛隊	北海道千歳市祝梅	西内 一
美幌隊	北海道網走郡美幌町字田中	西内 一
上富良野隊	北海道空知郡上富良野町自衛隊	今里 満夫
北千歳自衛隊	北海道千歳市北信濃自衛隊北千歳駐屯内	甲斐 哲夫
帯広	北海道帯広市南町南七線28 松岡修道館	吉岡 秀樹
島松支部	北海道島松駐屯地内武道場(島松補給処内)	小泉 義治
岩倉組支部	北海道苫小牧市木場町35	西内 一
北海道松下電器	北海道千歳市土長郡	手賀 日出春
ほくさん商事	札幌市北三条西1 ほくさんビル	南 康国
東北(4支部)		
八戸基地	青森県八戸市高館八戸航空基地	池田 繁勝
三沢支部	青森県三沢市空・自 三沢基地	村西 稔
松島航空隊	宮城県桃生郡矢本町 空・自松島基地	片倉 義明
第六航空団	石川県小松市向本折町戎267修E/CT	松下 昭和
関東(36支部)		
防衛庁市ヶ谷	東京都新宿区市ヶ谷本村町 駐屯地内	石戸 茂
防衛庁	東京都港区赤坂9の7の45 防衛庁内	中島 慎治
松戸自衛隊	千葉県松戸市五香六実17 松戸駐屯地内	〃
第四航空群	千葉県東葛飾郡沼南町 海・自第四航空群内	多々良 秀澄
農林省	東京都中野区野方3の15の12 農林省野方寮	武田 隆夫
国会支部	東京都千代田区永田町1 議員会館内	伊藤 誠一
三井造船千葉	千葉県市原市八幡海岸通り1 三井造船千葉体育館	立花 建治
埼玉戸田支部	戸田市戸田公園8の22	都筑 美好
東京鋼鐵	栃木県小山市泉崎64の1 東鋼寮	平原 正
神奈川県警第二機動隊	神奈川県川崎市木月1315 第二機動隊内	内田 喬
日本橋支部	東京都中央区日本橋通り1の6	吉住 克也
三鷹市役所支部	東京都三鷹市野崎3の1	鷹取 英夫
富士重工三鷹	東京都三鷹市大沢3の9の6	渡辺 和夫
千葉県機動隊	千葉県市川市5の2の3 県警本部整備部機動隊	小玉 忠博
神奈川県警察学校	神奈川県川崎市木月1315	矢嶋 千城
大蔵省印刷局	東京都港区赤坂葵町2	九鬼 健次
労働省	東京都千代田区大手町1の3の1 労働省内	松木 長實
千代田区役所	東京都千代田区九段南1の6の11 千代田区役所内	廣嶋 昌則
首都高速道路公団	東京都港区芝虎ノ門5 実業会館内	工藤 明
横浜市消防局	横浜市保土ヶ谷区川辺町1の10	綱島 和博
KKゼネラル	神奈川県川崎市高津区末長1116	佐名 木修
東京ラジエータ	神奈川県藤沢市遠藤3140	加藤 喜博
TKK支部	東京都狛江市和泉1600	谷川 芳三郎
日産横須賀	横須賀市夏島町1	加藤 一利
中央魚類KK支部	東京都中央区豊海町12の1 中央魚類豊海ビル	難波 勝昭

トミー精工支部
エポック支部
第一パン
日立熱器具柏支部
木更津市農協
東京応化工業
東京重機支部
富士交通支部
吉野工業所支部
空挺団支部
横須賀支部

東京都練馬区旭町2の2の12
東京都台東区駒形1の12の3 (株)エポック社内
埼玉県北葛飾郡三郷町高須600 第一パン内
千葉県柏市新十余2
千葉県木更津市長須賀382
神奈川県川崎市中原区中丸子150
東京都調布市国領町8の2の1
東京都北区栄町3の1
東京都江東区大島3の2の6 吉野工業所内
千葉県船橋市薬円台町2の205
神奈川県横須賀市田浦港町

秋吉好美
大中正司
渡辺慶四郎
高木俊知
志賀満州男
田村義久
栗山安生
武士裕三
池田 薫
浅野宮次
三室 勇

東 海(31支部)

日本衣料
トヨタ拳法部
日本電装
日本電装安城
日本電装西尾
トヨタ大林
トヨタ高岡
トヨタ土郷
本田技研鈴鹿支部
松下松坂支部
旭精機工業
花王石鹼支部
和歌山理容
住友金属和歌山
小牧航空団
岐阜基地
新湊新港支部
名古屋営林局
住倉工業
万能工業支部
東レ名古屋
富士紡小山
日産ディーゼル静岡
松田浜松支部
前田シェル支部
矢崎支部
中村合板支部
第一航空団
浜 松 南
守山自衛隊
鈴木自動車工業

愛知県小牧市大字小牧字大輪3173
愛知県豊田市元町一元町社員クラブ3階
愛知県刈谷市昭和町1の1 日本電装体育館
愛知県大府市森岡町山田下之坪26の20
愛知県大府市森岡町山田下之坪26の49
豊田市和会町西郷40

豊田市大政町1 上郷厚生センター
三重県鈴鹿市平田町平田野 本田技研工業(株)鈴鹿製作所
三重県松坂市上川町
愛知県尾張旭市旭前町新田洞5010
和歌山市湊薬種畑1334 花王石鹼和歌山工場内
和歌山市太田371
和歌山市湊1860 住金体育館内
愛知県小牧市南外山航空自衛隊小牧基地
各務原市那加航空自衛隊岐阜基地
新湊市三日曾根
名古屋市中区三ノ丸2の6の1
静岡県浜松市領家町469
愛知県安城市今本町4の4の26
愛知県名古屋市港区大江町9の1 東レ名古屋工場内
静岡県駿東郡小山町小山47 富士紡績KK
静岡県沼津市緑ヶ丘3の3
静岡県浜松市和田町711
愛知県岡崎市池金町金山76の4
静岡県小笠郡大浜町国包1360
愛知県名古屋市港区木場町 6
静岡県浜松市高丘町官有地
静岡県浜松市西山町空・自教整隊
名古屋市守山区大字守山字東山810 守山駐屯地
静岡県浜北市上島358

柳沢光一
山下咲雄
進藤勝則
佐々木 潔
佐々木 勇
近藤正勝

仲田要蔵
佐々木健次郎
前田 満
大久保高則
松田守生
石塚敏雄
小笠原国勝
森 健太郎
山之上久盛
本江利夫
速水信之
加藤 進
桑原俊雄
横山 司
瀧口總光
青島 勉
高井英道
前田義郎
朝比奈正和
東 豊俊
佐藤正次
菅 尚武
渥美好光
渥美哲生

関 西(30支部)

大久保支部	京都府宇治市広野町 陸上自衛隊大久保駐とん地	中原 勇
桂 部 隊	京都市南区久世高田町	牧野 清
伊丹自衛隊	伊丹市緑ヶ丘7の121 伊丹駐屯地業務隊本部	西谷 正尚
西宮市役所	兵庫県西宮市	平岡 和隆
寝屋川市役所	大阪府寝屋川市本町1の1	大森 義久
電々大阪	大阪府北区堂島西町大阪市外電話局内	中村 修三
松下電工	大阪府門真市大字門真1048	河野 只雄
住友化学大阪	大阪市此花区春日出278番地3	福良 晃
読売テレビ支部	大阪市北区岩井町2の74	鈴木 富治
高瀬染工	大阪府都島区都島南通り2の7の1	岩本 範夫
大和硝子	大阪府守口市八雲北町3の8	木村 孝幸
大阪造船支部	大阪府港区南福崎3の2の201	中川 節夫
松下豊中支部	大阪府豊中市稲津町5の1	
松下コンデンサー	京都府宇治市木幡西中25	長田 修
東急車輛大阪	大阪府堺市鳳南町3の200 東急車輛製造(株)大阪工場内	有本 尚生
三菱電機伊丹	兵庫県尼崎市南清水字中野80	井上 英雄
三菱電機神戸	神戸市兵庫区和田崎町3 三菱電機神戸製作所	津久 井進
神戸製鋼・神戸	神戸市灘区岩屋中町5の2 神戸中央体育館武道場	高畑 克昭
東芝姫路	兵庫県姫路市余部区上余部50	藤岡 宏
川崎重工明石支部	明石市川崎町1の10	品岡日出男
川崎重工神戸	神戸市垂水区塩屋町字平尾19 川重塩屋寮	大西 文雄
但馬松下電器支部	兵庫県出石郡出石福住	安永 俊博
松下茨木支部	大阪府茨木市松下町1の1	高倉 正明
朝日放送支部	大阪府大淀区大淀町南2の2 朝日放送(株)内	中村 晴雄
鷺宮製作所	大阪府東区平野町5の40 長谷川第一ビル 9 F	西村 芳和
日産サニー泉州	大阪府岸和田市上野町西14の25	細門 正義
三菱電機京都	京都府乙訓郡長岡町大字馬場小字図所 1	福森 基
神戸製鋼加古川	兵庫県加古川市金沢町1 神鋼加古川体育館武道場	松本 一男
浪華ゴム工業	大和高田市曾大根 浪華ゴム工業内	平田 容一
新 明 和	神戸市東灘区本庄町青木文京町300	小原 秀文
大阪工作所	東大阪市中野255 (株)大阪工作所内	今城 隆広

中 国(11支部)

住友重機械玉島	岡山県倉敷市玉島乙島住友重機械玉島健保体育館	板谷 時男
日本鋼管福山	広島県福山市春日台61	大野 喜章
光 製 鉄	山口県光市島田 光製鉄所体育館	高宮 大典
三井造船	玉野市玉3の1の1 三井造船体育館	義若 隆夫
品川白煉瓦	岡山県和気郡日生町寒河1497	岡崎 正幸
森下製網	岡山県和気郡日生町大字寒河字梶谷KK森下製網所	田原 隆雄
油谷重工	広島市祇園町南下安550	橋本 一寛
倉紡岡山	岡山市中井町2の5の17	丸山 泰光
天満屋倉敷支部	岡山県倉敷市阿知2の6の6 (株)天満屋倉敷店	龜山 幹男
呉自衛隊	広島県呉市三和町10の10	守安 殿明
江田島支部	広島県安芸郡江田島町 海上自衛隊第一術科学校	岡木 巖

四 国(17支部)

香川県庁

阪大微研支部

関西化学工業支部

川崎重工坂出支部

徳寿工業支部

東亜合成

住友化学菊本

鈴江農機支部

大倉工業

四国管区警察学校

光洋精工徳島工場

徳島農協会館

電々徳島

高知県警察

高知電々支部

善通寺自衛隊

第三航空群

香川県観音寺市八幡町

香川県善通寺市弘田町26の5

坂出市川崎町1の1

香川県高松市福岡町2の5の10

徳島市川内町中島575の1

愛媛県新居浜市新須賀町

高知県南国市後免町144の2 (株)鈴江農機製作所内

香川県丸亀市中津町1515

善通寺市善通寺町230-74 中仙遊町76

徳島県板野郡藍住町奥野寺

徳島市北佐古1番町5の12

徳島市北沖洲1の13の10-5

高知県南国市大桶八木乙1193

高知帯市屋町93

香川県善通寺市善通寺町2106

徳島県板野郡松茂町 徳島航空基地隊

佐戸政直

森川貞義

香川弘毅

児島喜春

坂谷英志郎

佐藤芳明

酒村幸男

山崎武史

中山久義

大木真彦

仁木栄一郎

川田芳男

赤川健治

溝淵純

太田勝義

渡辺実

松田喜久夫

九 州(14支部)

別府自衛隊

電々福岡

電々小倉

電々博多

北熊本自衛隊

都城自衛隊

協和支部

新日鉄八幡

安川電機行橋

安川電機黒崎

西鉄小倉

九州日通工支部

親和銀行長崎支部

那覇自衛隊

那覇自衛隊

大分県別府市野口原 自衛隊内体育館

福岡県粕屋郡新宮町下ノ府830

北九州市小倉区湯川平原峰崎アパート433の2

福岡県粕屋郡新宮町下府840-926

熊本市清水町八景水谷北熊本自衛隊業務隊駐屯地体育館

宮崎県北諸郡高崎町大字大牟田98

福岡市西区姪浜3613

北九州市八幡区枝光町1の1 戸畑東門内

福岡県行橋市大字大橋

北九州市八幡区藤田2346 安川電機製作所内

北九州市小倉区砂津日ノ出町374

福岡県田川市大字夏吉197

長崎市家野町6の2 親和銀行住吉支店内

熊本市清水町八景水谷自衛隊第301施設中隊

沖縄県那覇市宇鐘水679航空自衛隊83航空隊

綾野孝一

佐藤順一

田崎高松

瀬戸幾男

中島秀義

原田四郎

本田喜代利

沢井良二

田中克樹

藤田晋治

山本薫

久世徹

北川誠司

市川博文

石井悦雄

末法時代といわれる現代の闘争社会、自滅社会を救う『金剛禅』!!

名 実践教義

日本少林寺拳法

金剛禅総本山少林寺 管長
日本少林寺拳法連盟 会長

師家 宗道臣 著

著者 宗道臣師家について 中国
各地に拳法の達人を探し求めて修業を積むこと十七年。ようやく北京に隠れ棲む文太宗老師家より印可を受け法統を継ぐ。そして、日本の敗戦という天の時を契機として、著者自らその弘布に挺身され、わずか二十余年の間に門下拳士五十万人。また、洋の東西を問わず、諸外国においてもすさまじい勢いで発展している。

称嘆の一書!!
近日発売!!

少林寺拳法を主行とする『金剛禅』の創始者、宗道臣師家が、親しくその教義と実践を説く稀書。

救いようのない病める現代を救い未来を築くのは、既定既存の宗教でもなければ科学でも政治でもない。

拳禅一如、力愛不二の法門による人づくりから始まり、自分を生かし他人をも生かすことのできる自己を確立し、もって幸福社会を実現しようとする現世幸福運動、『金剛禅』を措いては救えないのではなからうか!!

本書により、術技の修業にも増して、師家『金剛禅』の教えを学び、自信と勇気を見出し、真の生きがい確立されんことを切望する。

■A5判 角上製本 256頁 予価780円 送料200円 ■口絵グラビア・総平凹版印刷 ■近くの書店でお求め下さい。店頭がない場合でも取寄せてくれます ■直接、御注文の場合は、送料を添えて現金書留または振替にて、小社営業部販売課宛にお申込み下さい ■カタログ(内容見本)を御希望の方は、小社営業部宣伝課へ御用命下さい



東京都文京区小日向2丁目9番10号 ☎112

図書出版 株式会社 東京書店

電話 03(947)2311(代表) 振替東京21742番